

第6レース 《今夜の気分は大人のラテン・ジャズ》



ナイト・バーズがこのレースに波乱を呼ぶかもしれないね。シャカタクの曲が吹奏楽のコンサートで聴けるのは稀で、マイナーコードのメロディーラインが魅了するに違いない。

大穴・番狂わせ

ジャズと一口に言ってもクラシック・ジャズからラテン、フュージョン、ボサノヴァ等様々な形式がある。ここにエントリーしている6曲は全曲本命と言つて良い程の名曲ばかりだね。しかしこのコンサートのラストを飾るにはどうだろうか？
うーん、エル・クンバンチェロが相応しいかな。パーカッションの多彩なリズム打ちとブラスセッションの力強いパッセージが群を抜く。中間部のフルートセッションのデュエツト・ソロが魅力的で、お祭り騒ぎそのものである。

当レースの本命



中澤の

曲名

50	49	48	47	46	45	44	43	曲名	
ムーンライト・セレナーデ	ブルー・タンゴ	ナイト・バーズ	酒とバラの日々	コパカバーナ	イパネマの娘	エル・クンバンチェロ	A列車で行こう	作曲者	
グレン・ミラー	ルロイ・アンダーソン	ウリアム・シャープ他	ヘンリー・マンシーニ	パリー・マニロウ他	A・C・ジョビン	R・エルナンデス	ビル・ストレイヘン	編曲者	
山下国俊	ルロイ・アンダーソン	中川賢二	岩井直溥	岩井直溥	岩井直溥	岩井直溥	岩井直溥	予想師	
△			○		○	◎	△	ダニエル	予想師
○				◎	◎		△	さきつちよ	
◎				△				なかじ	
○		○			△			かいかい	
3	3	5	3.5	3.5	3.5	4	4	まいまい	難易度
中	多	少	多	少	中	中	多		演奏頻度
4拍子。J=76。 Es-dur。 クラリネットに指速なソロあり。	4拍子。J=126。 Es-dur。 特記事項なし。	4拍子。J=138。 c-moll。 ピブラフォン、アルト・サクソにソロあり。ダル・セーニョあり。激熱!	4拍子。J=80。 F-dur。 ラストに怒濤のフラット6つ!	4拍子。J=116。 B-dur。 パーカッション大活躍。ダル・セーニョあり。	4拍子。J=90。 F-dur。 フルート、アルト・サクソにソロあり。	2拍子。J=276。 F-dur。 速い! 熱い! くだい!	4拍子。J=120。 C-dur。 転調あり。トランペット、ソプラノ・サクソ、トロンボーンにソロあり。		特徴
トロンボーン奏者のグレン・ミラーによって1939年に作られました。スウィングジャズの代表曲の一つであるこの曲は、グレン・ミラー楽団のバンドテーマとなっています。オリジナル・アレンジはクラリネットをフィーチャーしたビッグバンドのスローナンバーですが、のちに様々なアレンジで多くのバンドにカバーされています。また、ミッチェル・パリッシュによって歌詞が書き加えられ、歌としても取り上げられることがあります。 ・・・夜の見える素敵なバー...今夜は「ブルームーン」(※8)で私を酔わせて。	この曲はアメリカの作曲家、ルロイ・アンダーソンによって1951年に作曲された管弦楽曲です。彼の最大のヒット曲となったのが「ブルー・タンゴ」で、この曲が収められたレコードは器楽曲で初めてのミリオンセラーになりました。 ・・・社交界デビューは「ミモザ」(※7)と共に。	イギリスのジャズユニット、Shakatakが1982年に発表し世界的人気になった曲です。ジャズを基調としたサウンドに多くのジャンルを組み合わせた「フュージョン」というジャンルで異例のヒットを記録し、メロディーの親しみやすさから日本でも根強い人気が確立されました。 ・・・夜の始まりは、秘密のカクテル「XYZ」(※6)	1962年公開の同名映画の楽曲として作られました。今もこよなく愛されているジャズスタンダードの1つで、日本では「酒とバラ」と略して呼ばれることも多いです。ちなみに映画の内容は、若い夫婦がそろってアルコール依存症へ落ちていく...というものです。当時の社会問題を扱った作品で、曲名の美しさとは違いシリアスな物語です。 ・・・私からだには「赤ワイン」(※5)が流れている。	1978年にパリー・マニロウが発表した曲で、アメリカ・ニューヨーク市のナイトクラブ、「コパカバーナ」で恋に落ちた2人の悲劇的な結末が歌われています。踊り子を目指しているローラと恋人のバーテンダー。ある日、店に来た客の男にローラを取られそうになったことから乱闘が起こります。30年後、ローラは同じ場所にいますが、ナイトクラブはディスコに変わり、若さも恋人も失ってしまいました。 ・・・恋の思い出は「スプモーニ」(※4)のほろ苦さ。	1962年に作曲されたこの曲は、ボサノヴァのナンバーの中でもっとも有名な歌曲です。「イパネマ」とはブラジルのリオデジャネイロ市内に位置するイパネマ海岸のことです。この海岸近くにあったバーで飲んでいた作曲家は、そこへたびたび訪れていた娘からヒントを得てこの曲が作られました。オリジナルのポルトガル語歌詞は、海岸を歩き去る娘への届かぬ想いを物悲しく訴える内容が書かれています。 ・・・「テキーラ・サンライズ」(※3)を飲むと、その娘の小麦色の肌が思い出される。	プエルトリコの国民的作曲家、ラファエル・エルナンデスの代表作で、1943年に作詞・作曲されました。曲のタイトルの「エル・クンバンチェロ」はスペイン語で、日本語に直訳すると「口の広い盃(クンバ)を叩く男」となりますが、原語のニュアンスで意識すると「飲んでお祭り騒ぎをする人」という感じの意味になります。 ・・・情熱のカクテル「キス・オブ・ファイア」(※2)が今宵の私を大胆にするわ: ・・・今夜の気分はモルト・カクテル「マン・ハット」(※1)で乾杯!		曲紹介 by づみ	

